

経営基盤強化型 株式会社昭和螺旋管製作所

新たな成長を目指した将来ビジョンづくり

関東支部 統括プロジェクトマネージャー 齋藤 環

【ポイント】～「配管作りを通じて、便利で安全に暮らせる社会をつくる」～

当社は水道管をはじめ、車関連製品、消火関連製品、変電・プラント関連製品などを製作している螺旋管専門メーカーである。経営理念として、ぶれない「R・A・S・E・N」(ラセン)の志を掲げ、「縁の下の力持ち」として社会の役に立てるよう努力を続けており、大手ゼネコン、大手設備メーカー、官公庁などの顧客から確固たる信頼を得ている。

当機構の専門家継続派遣事業で、「新製品開発」「新市場開発」「組織構造の改革」の支援を行った結果、当社は、新たな成長の方向性とそれを実行する経営組織の強化を図った。

企業概要

- ▶ 企業名：株式会社昭和螺旋管製作所
- ▶ 業種：工業用螺旋管の製造販売
- ▶ 本社所在地：東京都板橋区
- ▶ 資本金：12百万円
- ▶ 設立：昭和35年(創業昭和22年)
- ▶ 売上高：3,429百万円(平成22年1月期)
- ▶ 従業員数：135名



代表取締役 佐々木勇会長

当社は、「配管作りを通じて、便利で安全に暮らせる社会をつくることに全力を尽くす」ことを経営ミッションとし、創業以来、「曲げる、縮める」ベローズ(蛇腹)製品の製造に特化している。

経営理念では、ぶれない「R・A・S・E・N」(ラセン)の志として、R(利便性の追求～独自能力)・A(安心・安全を確保する～社会貢献)・S(誠実に行動する～社会貢献・顧客本位)・E(縁の下の力持ちに徹する～顧客本位)・N(ぬくもりを大切にす～社員重視)を掲げている。

当社の強みは、生産設備の設計・加工・組立・メンテナンスまで自分たちで手がけていることである。顧客ニーズに対応した製品開発や品質管理は勿論、さらには大手メーカーから依頼され排気管の生産設備の開発、生産、納入をおこな

った実績がある。

また、特許等の知財を約50件保有しており技術力の高さを伺わせる。



支援課題の設定とプロジェクトマネージャーの視点



齋藤 環 統括プロジェクトマネージャー

平成19年、当時の社長であった現佐々木会長は、当社が手掛ける製品分野は市場が成熟しており、従来の進め方で事業の成長・拡大を図ることは困難と考えていた。このため、今まで培った技術開発力・営業ネットワーク・信用力等を活かした新事業を模索しており、中小機構へ専門家継続派遣事業の申込みを行った。

当社の課題を、経営資源(技術開発・生産・マネジメント)のさらなる充実と新たな経営資源の獲得による中期的な新事業構築に設定し、平成19年に「新製品の開発と販路開拓による新事業展開」をテーマに専門家継続派遣事業を開始した。

さらに継続して平成20年には、「新市場開発による戦略的新事業展開」、平成22年2月から半年間は、仕上げとして「事業の将来像とビジ

「オンラインづくり及び実行計画策定」をテーマに支援した。

支援内容と支援成果

検討テーマは多岐に亘ったが、チタンをベースとした新螺旋管の開発、次世代電気自動車への対応をどのようにするか等の具体的なターゲットの事業化検討を行った。

さらに事業化の推進にあたって活力ある組織形態をどうするかに多くの時間を割いた。

プロジェクトの推進は、経営トップを中心におこない、アドバイザーを交えてフリーディスカッションによって企業の将来像、製品や市場の検討、さらに新たな経営組織の検討を行った。

当社は頑固なまでに「曲げる・縮める」ベローズ（蛇腹）製品に特化しており、今後もその技術を生かす経営方針に変わりはない。

新製品・新市場・新組織の検討を約3年の長期間に亘って検討し、将来ビジョンに基づき経営している。

一方、事業の多角化をタイムリーに実現するために、シナジー効果のある事業のM&Aも選択肢の一つとして模索している。さらに多様化した事業を効率的に運用するために、カンパニー制の導入を検討している。こうした革新的な挑戦姿勢も当社の特徴といえる。

一連の支援を通して厳しい経営環境の中でも

一定の利益を上げ続けてきた経営基盤をさらに盤石な経営組織へと転換し、新たな成長を目指す起点になった支援が出来たと考えている。

経営者のことば

専門家継続派遣で「新製品開発と販路開拓」を学びました。続いて「開発した新製品を如何に市場化し、更に事業化につなげるか、連携やM&Aを含めた戦略的対応方法」について良いガイダンスを頂きました。

さらに、「各事業部が自主的に経営に当たるカンパニー制度導入による将来ビジョンを描き社員が志を持って働く体制整備」の支援を頂き、今後の経営の方向を明確に定めることができ、中小機構の支援制度に感謝をしております。

